

木のおもちゃには
愛着が湧きます

木材の魅力を
知って活用!

ウッド・チェンジ

04



林野庁職員
岡崎

木が教えてくれること 「木育」のすすめ



年間約15万人の来場者がある「東京おもちゃ美術館」(東京都新宿区)。

館内に一歩足を踏み入れると、木の香りに包み込まれます。

木とふれあい、木に学び、木と生きる「木育」について、

多田館長にお話をうかがいました。



見どころ!

> 多くの人を「木」のファンにしたい

> 林野庁には木がいっぱい! 「ウッド・チェンジ」ツアー

— 多くの人を「木」のファンにしたい

「木育ひろば」では赤ちゃんが泣かない

東京おもちゃ美術館には、「赤ちゃん木育ひろば」という部屋があります。温かく柔らかい無垢のスギ材のフローリングを敷き、大きな木製のオブジェや手のひらサイズの「スギコダマ」をはじめとするたくさんの木のおもちゃを置いています。

不思議なことに、この部屋では赤ちゃんがほとんど泣かないんです。木に触れることで心が落ち着くんじゃないでしょうか。また、子どもに限ったことなく、保護者の方にも同じことがいえます。お父さんやお母さんも落ち着いて過ごせるから、赤ちゃんといっしょに遊んだり休んだりしています。滞在時間も長いですよ。



お話を聞いた方

多田千尋さん

東京おもちゃ美術館
館長



「赤ちゃん木育ひろば」には国内10地域のスギが使われていて、温かな空間をつくりあげている。右下に数十個置かれているのがスギコダマ。



兵庫県産の木製そろばん玉が大きな箱いっぱい置いてあり、子どもたちは手のひらいっぱいにつかんで遊ぶ。



北海道産の広葉樹の木玉が2万個入った「木の砂場」はまるでプールのよう。

おもちゃになっても木は「生きている」

木のおもちゃは、何年、何十年経っても使い続けることができます。色は変化しますし、削れたり丸みを帯びたりと形を変えることもあります。それでも捨てられることなく愛され、世代を超えて受け継がれるのは、おもちゃになっても木は「生きている」からなんです。

身近に、ご両親やその上の世代の方の使っていた羽子板やけん玉やコマはありませんか？ 大切に使ってきたぬくもりや思い出もいっしょに受け継ぐことができるのは木のおもちゃだからこそだと思います。



木の野菜を収穫して、木のキッチンで調理して食べるといった食べ物の流れを体験。

暮らしの中に少しずつ木を取り入れてみて

身近に木がある暮らしは、心を落ち着かせるだけでなく日本の森林の活性化にもつながります。とはいえ、すべてを一度に木で揃えましょうということではありません。

例えば、「国産材の木のおもちゃを誕生祝いにしよう」など、お子さんに木のおもちゃをひとつ、ふたつと用意してあげるところから始めてみてはどうでしょう。木のおもちゃに触れて楽しむことで、みんなが木のファンになってほしいですね。そして、次に何かを買い替えるときに「木の製品にしようかな」と検討してほしい。そんなふうに思っています。

木育というと、「小さなころから木に触れ、木と生きていくこと」と捉えがちですが、年齢を問わず誰にとっても必要な取り組みです。木のおもちゃが、少しずつ暮らしの中に「木」のぬくもりを増やしていくウッド・チェンジのきっかけになるとうれしいです。



東京おもちゃ
美術館



<https://art-play.or.jp/ttm/>



Topics

農林水産省には木がいっぱい！ 「ウッド・チェンジ」ツアー

農林水産省では、暮らしの中に木材製品を取り入れることで、日本の森林を育てていく「木づかい運動」を推進しています。霞が関にある庁舎内にも木がいっぱい使われています。



林野庁長官室。壁や床をはじめ、小物まで木がふんだんに使われています。

林野庁長官の
ネームプレートも木製！



軽くて耐久性にも
優れているんですよ！

木目の美しさが目を引く通勤カバンは、高知県のスギの間伐材から作られているのだそう。

小島裕章 林野庁木材利用課長
(※2023年6月撮影当時、現輸出・国際局国際経済課長)



数十年間、毎日
愛用しています

こちらの曲げわっぱのお弁当箱は、田端さんが小学生のとき長野県の本曾へ旅行に行った際、お祖母様に買っていたものだとか！

田端朗子
林野庁木材利用課 課長補佐



テーブルの肌触りが
抜群なのだそう

ワークデスクや打ち合わせスペース、棚など至る所に木があふれています。



原料に間伐材を含む国産材を
3割以上使用する「カートカン」に
入った飲料を販売



廊下に設置された自動販売機にもふんだんに間伐材が使われています。



足の裏に触れる木の感触が
とっても心地いい！

2017年に設置した農林水産省の事業所内保育所も、企画段階から林野庁が関わり、木がいっぱい。内装や設備をはじめ、子どもたちは木製の玩具で楽しそうに遊んでいました。